

## 厚生労働大臣指定法人・一般社団法人 いのち支える自殺対策推進センター

## 革新的自殺研究推進プログラム

## 自殺対策推進レアル（令和4年度委託研究成果報告会）参加者アンケート結果

## 【ポイント】

- 自殺対策推進レアルの満足度は、「やや満足」「満足」を合わせると、全体（領域1～3の延べ）で、97.9%となった。領域別には、領域1：98.7%、領域2：98.0%、領域3：95.7%となった。
- 研究課題について16課題それぞれの評価を見ると、参考になったという回答（「大変参考になった」「やや参考になった」）が80.0%～95.1%にのぼり、どの課題についても高評価だった。
- 自殺対策推進レアルへの意見としては、「よい機会となった」「今後の取り組みに生かしたい」等のほか、次回への参加希望やJSCPへの期待（「研究協力自治体と研究者の橋渡し役」）も寄せられた。

## 1. 自殺対策推進レアルの開催とアンケート実施（図表1）

「令和4年度革新的自殺研究推進プログラム自殺対策推進レアル（委託研究成果報告会）」をオンラインで開催し、地方自治体職員の方を中心に3日間で延べ約940人の参加があった。アンケートは3つの領域ごとに行った。全体（領域1～3の延べ）では479件(51.1%)の回答があった。領域別には、領域1：235件(54.6%)、領域2：151件(50.3%)、領域3：93件(44.3%)の回答があった（図表1）。

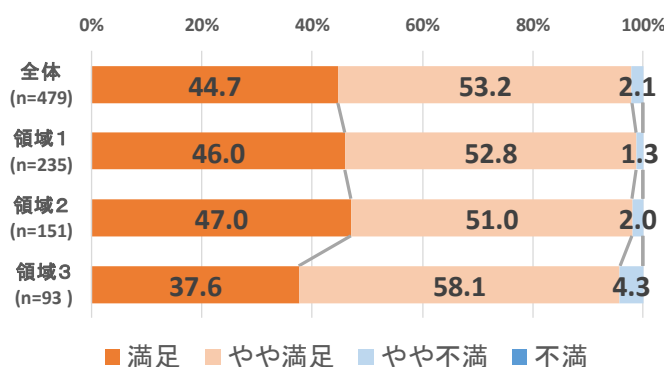
図表1 自殺対策推進レアルの開催とアンケート実施

領域名		開催日	参加者 (およそ)	アンケート	
				回答者	回答率
全体（領域1～3の合計。延べ）		—	940	479	51.0%
領域1	子ども・若者に対する自殺対策	2023年7月31日	430	235	54.6%
領域2	自殺ハイリスク群の実態分析とアプローチ	2023年8月8日	300	151	50.3%
領域3	ビッグデータ・AI等を活用した自殺対策	2023年8月7日	210	93	44.3%

注：自殺対策推進レアルの開催レポートは[こちら](#)

## 2. 自殺対策推進レアルの満足度（図表2）

図表2 レアル参加満足度（%）



自殺対策推進レアルの満足度について、全体（領域1～3の延べ）では、「やや満足」と回答した割合が最も多く(53.2%)、次に「満足」が多い結果となった(44.7%)。「やや不満」はわずかで(2.1%)、「不満」という回答はなかった。この傾向はどの領域も同じであった。

「やや満足」「満足」を合わせると、全体（領域1～3の延べ）で、97.9%となった。領域別では、領域1：98.7%、領域2：98.0%、領域3：95.7%と好評な回答となった（図表2）。

満足度の理由について自由記述の回答を見ると、「満足である」「やや満足」の回答者からは、最新の研究・多様な研究を知ることができたこと（「自殺対策に関するツールや方法の多方面からの研究報告が聞ける機会は初めてで、とても興味深かった」等）や、業務上に有益であったこと（「研究結果からのお話

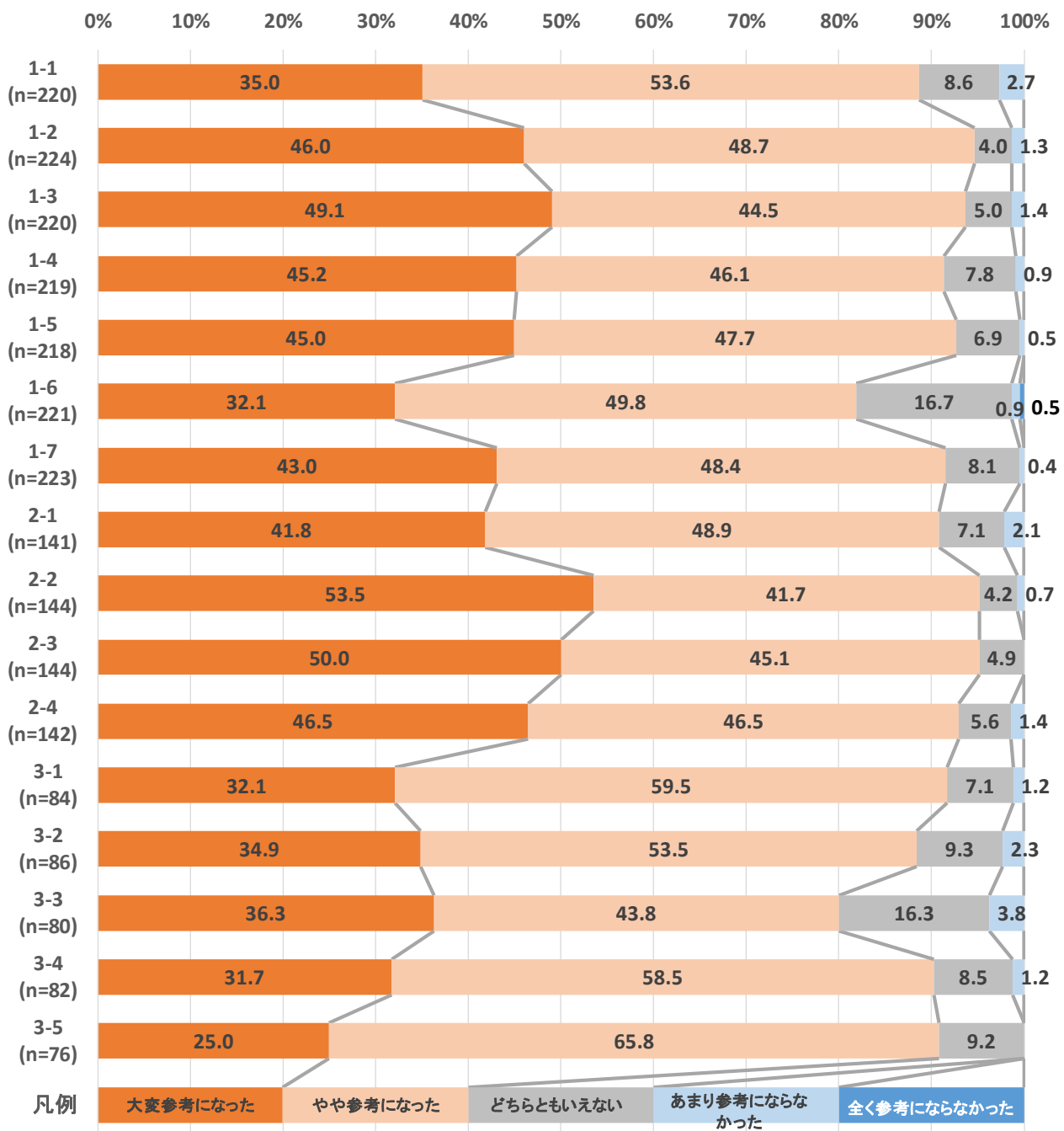
であり、自分の市での事業に活かすための根拠に基づいた説明ができると思った」等)といった意見が多く寄せられた。

「やや不満」の回答者からは、用語や内容が難しいこと(「内容が難しかった」「専門用語が難しいと感じた」)、研究内容の具体性・実現性について(「途中経過のご報告のため、具体的な実践までどの研究も至っていなかったため」「実務に生かせることが難しいと感じた」)が、理由として挙げられた。

### 3. 課題別発表についての評価(図表3、図表4)

16の研究課題別に、発表が参考になったか回答してもらったところ、参考になったという回答(「大変参考になった」「やや参考になった」)が80.0%~95.1%にのぼり、どの課題も高い評価となった(図表3)。

図表3 課題別評価(割合、「発表を視聴していない」を除く)



注：研究課題名および研究代表者は、図表4を参照のこと

特に、研究課題2-2、研究課題2-3は、「大変参考になった」が半数以上という高評価だった。「がん患者の自殺者や非行少年少女などの自殺企図が多いことなど、今まで知らなかったことでとても参考になった」「非行少年等の自殺行動に関する研究を見たことがなかった」等の自由記述もあり、ハイリスク群としての非行少年やがん患者などへの研究について、特に注目されたようだった。

#### 4. 自殺対策推進レアール全体に対する意見・感想

自殺対策推進レアールへの自由回答記述では、よい機会となった（「分野を超えた自殺対策を知り、自分の活動の今後について考える機会となった」等）、今後の取り組みに生かしたい（「自分の自治体でも研究・調査を行いながら対策を進めていくことができたならより良い対策が取れるのではないかと考えた一方、業務量に負けて企画するまでにいたっていない。対策メンバーを大切にしながら、学んだことを借りて少しずつ取組んでいきたいと思った」「分野を超えた自殺対策を知り、自分の活動の今後について考える機会となった」等）、心強く感じた（「いずれも先進的な研究で、さまざまな立場の方が自殺予防のアプローチを研究されていることが心強く感じた」等）といった意見が寄せられた。

他にも、研究協力自治体と研究者の橋渡し役としてのJSCPへの期待、研究結果の活用方法の提示への希望、開催方法についての提案・希望（広報のあり方、動画視聴（オンデマンド配信）の希望、開催時間）があった。次回も参加したいという意見も複数あった。

図表4 令和4年度革新的自殺研究推進プログラム 委託研究課題一覧

領域1：子ども・若者に対する自殺対策		
1-1	オンライン不登校支援事業が子どもの学校復帰に及ぼす効果に関する研究	池田 利基
1-2	SOSの出し方教育における地域連携モデルの開発	江畑 慎吾
1-3	児童生徒の自殺リスク予測アルゴリズムの解明：自殺リスク評価ツール（RAMPS）を活用した全国小中高等学校での大規模実証研究によって	北川 裕子
1-4	全小児科医を対象とした大規模調査：「小児科による自殺防止セーフティネット」構築へ向けた課題整理と政策提言に関する研究	呉 宗憲
1-5	子どもの抑うつに対する遠隔メンタルヘルスケアの社会実装と早期受療システム整備-KOKOROBOと子どもの精神疾患レジストリ連携-	佐々木 剛
1-6	大学生および妊産婦の社会的孤立・孤独に注目したAYA世代の自殺対策プログラムの開発	藤原 武男
1-7	学校において教職員がゲートキーパーとして機能するためには何が必要か？—チーム学校によるマルチレベルな自殺予防体制の支援・組織モデルの構築—	目久田 純一
領域2：自殺ハイリスク群の実態分析とアプローチ		
2-1	トラウマを有する者における自殺行動の予測と予防に向けた認知機能・認知バイアスの検討	金 吉晴
2-2	非行を有するハイリスクな青少年の自殺・自傷行為の理解・予防・対応策に関する包括的な検討	高橋 哲
2-3	がん患者の自殺に関する全国実態分析とがん診療病院自殺対策プログラムの検討	藤森 麻衣子
2-4	DPCおよびレセプトデータを用いた自殺企図者の医療機関受診状況の分析	松田 晋哉
領域3：ビッグデータ・AI等を活用した自殺対策		
3-1	視覚情報のAI分析を活用したメンタルヘルスDXプロジェクト	奥山 純子
3-2	IoT活用による子どもの援助希求行動の促進に関する研究	久保 順也
3-3	ポストコロナの自殺対策に資する統計等のマイクロデータ利活用推進に関する研究	椿 広計
3-4	過量服薬のゲートキーパーの養成を目指したビッグデータ解析と新規養成システムの構築：地域の薬局を「気付き」と「傾聴」の拠点とした過量服薬の防止	永島 一輝
3-5	兵庫県における医療ビッグデータと法医学データを組み合わせたコホートデータベースを用いたリアルワールドデータによる自殺リスクの検討	宮森 大輔

■アンケート結果問い合わせ先（メール）： 厚生労働大臣指定法人・一般社団法人 いのち支える自殺対策推進センター 革新的自殺研究推進プログラム事務局 [irpsc@jscp.or.jp](mailto:irpsc@jscp.or.jp)